

大阪人間科学大学
学長

齊藤公男



相手を思いやり、その気持ちを 実際に役立てることができる 対人援助の専門職を育成しています

本 学の建学の精神「敬・信・愛」には、人を尊敬し、信頼し、愛するとともに、人からも尊敬され、信頼され、愛される人間に育ってほしいという気持ちが進められています。この精神のもと、自ら考え行動する「自立」と、他者を思いやる「共生」の心を培ってほしいと思います。前任校では、若者から年配の方まで、さまざまな目的を持って学ぶ学生と接し、学ぶ気持ちをもち続けることの大切さ、人のため、社会のために学ぶことの尊さを感じたものです。

近年、大学から社会への移行をめぐり、若者のコミュニケーション能力や、自ら課題を見つけ解決する能力の乏しさなど、さまざまな問題が指摘されています。こうした力は従来、家庭や地域で身に付けるべきものでしたが、今では大学在学中に身に付けさせることが強く求められています。大学における教育の柱は、演習や実習により思考の訓練を行い、講義で得た知識や技術の理解を深めることにありますが、こうした社会情勢を踏まえ、本学でもいわゆる社会人基礎力の養成に力をいれています。1年次から、社会とはどういうところで、何が求められているかなどを伝え、一人ひとりがキャリアをデザインできる教育を行っています。そうした面倒見の良さこそ、少人数教育を柱とした本学の特色です。「基礎から専門まで、わかりやすく教えます」「あなたのどんな小さな悩みにも相談のり、一緒に考えます」「あなたの将来を一緒に考え、支援します」

という3つの宣言のもと、学生のやる気や可能性を引き出す努力が続いているのです。かつての大学のあり方とは違ってもいいかもしれませんが、こうしたやさしいスタンスをもつことも今の大学の大切な使命だと考えています。

2012年度本学は「医療福祉学科」「子ども福祉学科」「医療心理学科」の3学科を新設します。視能訓練士、保育士、幼稚園教諭1種、言語聴覚士などの資格取得が目指せる学科です。これにより「社会福祉学科」「健康心理学科」と合わせ、1学部5学科体制に生まれ変わる予定です。対人援助の分野で活躍しうる専門職の養成という、本学が目指すところを旗幟鮮明に打ち出した学科構成といえます。

本学は「社会に役立つやさしさを学ぶ」をスローガンとして掲げています。ここでいうやさしさとは、単なる思いやりの心ではなく、「相手を思いやり、その気持ちを実際に役立てる力」です。本学学生に入学動機を尋ねると、「介護が必要な高齢者と身近に接してきたから」という声がよくあります。本学が対人援助分野の専門職養成に特化していくうえで、そうしたやさしい気持ちを、これからはしっかり受け止め、学生を育てていきたいと思っています。

【学長プロフィール】さいとう きみお●1943年生まれ。大阪府立大学工学部卒業、大阪大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。大阪大学工学部助教授、広島大学大学院国際協力研究科教授、同研究科長、放送大学特任教授(広島学習センター所長)などを経て、09年より現職。

【大学プロフィール】1931年創設の薫英女子学院を前身として2001年に開学。人間科学部(社会福祉学科、健康心理学科、環境・建築デザイン学科)を12年、人間科学部(医療福祉学科、子ども福祉学科、医療心理学科、社会福祉学科、健康心理学科)に改組予定。